

インドの病院における医療機器の保守・メンテナンスの一般的な考え方

病院における医療機器の購買担当者から直接ヒアリングした内容も踏まえて、以下の特徴があることが分かった。

- (1) 公立病院では、購入から5年の長い保証期間を期待しており、一般化している。
- (2) 医療機器の導入後の維持管理のために病院自らがメンテナンスを行うという概念は無いか予算的にも財源が乏しいことから、機器の購入コストに技術的な保守・メンテナンスサポートのコストが含まれていることを期待している。従って、保守・メンテナンスサービスは、保証期間中は無料で提供されることとなる。
- (3) 保証期間が終了した後、病院は、保守・メンテナンス人材がいない、もしくは不足している場合には、年間保守契約（**AMC**：Annual Maintenance Contract）を結ぶことが多い。AMCには2つのサポートがあり、病院側で選択し契約する。

このAMCに関して、

- ① メンテナンス人材サポートのみの場合：契約金額は年間、購入した機器のコストの1～3%を機器1台毎に支払う。
- ② 修理部品の調達も含めたメンテナンス人材サポートを受ける場合：購入した機器のコストの3～5%を支払う。

ちなみにヒアリングを行った病院では、透析機器1台のAMCは年間60,000円（部品及びメンテナンス人材サポートを含む）掛かり、60,000円×25台（所有台数）の場合であれば、年間150万円以上となるという。